

平成29年度 実践報告書

◎ 平成29年度の取組 (視察・研修・国際理解・講座等)

4月	・ 学校生活適応指導	P. 1
	・ 相談会	
	・ 研修会	
5月	・ 日本文化	P. 2
6月	・ 連絡協議会	
	・ 巡回担当者会	P. 6
	・ 福岡県福岡市立内浜小学校 視察	
7月	・ 愛知教育大学 外国人児童生徒教育概説 講師	P. 7
	・ 愛知教育大学 外国前期	P. 8
7・8月	・ 七夕給食・お楽しみ会	
8月	・ 夏休み宿題・懇談会	P. 9
	・ 夏期海外研修	
	・ NIE 全国大会 発表執筆	P.10
9月	・ 教育委員会 月報 原稿執筆	
10月	・ 編入・入学相談	
	・ 中・大・大学教員 視察	
	・ 就学・健康診断	P.11
11月	・ 南中ふれあい 意見交換会	P.12
	・ 小中国際交流 初任者研修会	P.24
12月	・ 小中国際交流 初任者研修会	
	・ 小中国際交流 初任者研修会	P.25
	・ 小中国際交流 初任者研修会	P.26
	・ 小中国際交流 初任者研修会	P.27
	・ 小中国際交流 初任者研修会	
1月	・ 小中国際交流 初任者研修会	P.28
	・ 小中国際交流 初任者研修会	P.29
2月	・ 小中国際交流 初任者研修会	P.30
	・ 小中国際交流 初任者研修会	
	・ 小中国際交流 初任者研修会	

◎	個人調査票内容改定、マニュアルの改定	P.31
◎	外国人に日本語・教科テストの改定、児童生徒追跡調査	
◎	教材・新書・新編作成、教材作成用画像の整理	
◎	教材・新書・新編作成、教材作成用画像の整理	
◎	教材・新書・新編作成、教材作成用画像の整理	
◎	教材・新書・新編作成、教材作成用画像の整理	
◎	教材・新書・新編作成、教材作成用画像の整理	
◎	教材・新書・新編作成、教材作成用画像の整理	P.34
◎	教材・新書・新編作成、教材作成用画像の整理	P.35

◎ 平成29年度の取り組み（視察・研修・国際理解・講座等）

4月～

学校生活適応指導 岩倉市立岩倉東小学校



- 該当児童生徒 25名(小学生 20名, 中学生 5名)
 - ・ ブラジル13名, ペルー1名, ボリビア1名, コロンビア2名, フィリピン3名, パキスタン1名, 中国1名, 韓国1名, インドネシア1名, ネパール1名
 - ・ 東小10名, 曾野小3名, 南小5名, 北小2名, 岩中5名

4月～

学校生活適応指導 岩倉市立岩倉南小学校

原則, 学校生活適応指導は, センター校である岩倉東小学校でブラジル人講師の担当者が指導を行うが, 保護者が東小学校への送迎をすることができない場合が増えてきた。

今年度より南小にフィリピン人講師が在籍できることとなり, 保護者が送迎できない場合は, 南小を会場として学校生活適応指導を実施した。今年度は, フィリピンとブラジルにルーツをもつ児童合わせて9名が学校生活適応指導を受けた。本校で学校生活適応指導が行えるため, 来日したばかりの児童が早く学校生活に慣れることができ, 体育や音楽などは教室で他の児童と一緒に活動することができるなど時間割に融通を効かせることができた。その一方で課題としては, フィリピン人講師はの勤務は, 月・火・金の週3日であり, また通訳等もお願いをしているため, 時間割の組み方が難しい。

- 南小で学校生活適応指導を受けた人数
 - ・ フィリピンにルーツをもつ児童
1年生2名, 3年生2名, 5年生1名 計5名
 - ・ ブラジルにルーツをもつ児童
2年生1名, 3年生3名 計4名



4月

相談会

日時 4月17日 岩倉市立南部中学校
4月20日 岩倉市立岩倉東小学校



4月～

研修会 毎週 水曜日 事務局校を中心に



4月

日本の文化 五条川小学校

- 1 日 時 4月17日 授業参観
- 2 会 場 日本語教室
- 3 時 間 日本語の取り出し指導時間
- 4 目 的 日本の文化に触れる
- 5 内 容 日本の名曲「さくら」を琴で演奏体験
数字で表してある楽譜を見て演奏する。
- 6 感 想
 - ・ 琴は初めてみたよ。
 - ・ 琴爪をはめて音を出したら、きれいな音が出た。
 - ・ 違う曲も弾いてみたい。
 - ・ こんな体験ができて嬉しい。



5月

岩倉市日本語・ポルトガル語適応指導教室 連絡協議会

平成29年5月31日

1 会長あいさつ（岩倉市教育委員会 教育部長）

日本語・ポルトガル語適応指導教室に携わることになり、今年で2年目となったが、外国にルーツのある児童に日本語指導をするということは、学校のため、地域のため、岩倉市のためということがようやく分かってきた。授業を拝見したときは、モジュール指導のおかげで児童生徒の集中が切れることなく、生き生きとして授業を受けているように感じた。岩倉市の教育委員会の方でも、これからも応援している。教育子ども未来部は保育園も紹介している。保育園にも外国にルーツのある児童がいるので、また困ったときには相談させていただくことがあるかもしれない。



2 自己紹介

- ① 教育委員会
 - ・ 教育委員会 部長
 - ・ 教育委員会 課長
 - ・ 教育委員会 グループ長
 - ・ 教育委員会 管理指導主事
- ② 校長会長・事務局校校長（岩倉南小学校）
 - ・ 岩倉市校長会会長・事務局校校長 岩倉南小学校 校長
- ③ センター校校長
 - ・ 小学校センター校 岩倉東小学校 校長
 - ・ 中学校センター校 南部中学校 校長
 - 担当者 在籍校 校長
 - ・ 担当者在籍校 岩倉中学校 校長
 - ・ 担当者在籍校 岩倉北小学校 校長
 - ・ 担当者在籍校 曾野小学校 校長
 - ・ 担当者在籍校 五条川小学校 校長
- ④ 教務主任
 - ・ 岩倉南小学校 教務主任



- ・ 岩倉東小学校 教務主任
- ・ 南部中学校 教務主任
- ・ 岩倉中学校 教務主任
- ・ 岩倉北小学校 教務主任
- ・ 曾野小学校 教務主任
- ・ 五条川小学校 教務主任

⑤ 養護教諭代表

- ・ 小学校センター校 岩倉東学校 養護教諭
- ・ 中学校センター校 南部中学校 養護教諭

⑥ 日本語担当 紹介

- | | | | | |
|-----------|---|---------|--------|--------|
| ・ 村瀬 英昭◆ | — | 室長（事務局） | 岩倉南小在籍 | 【17年目】 |
| ・ 加藤 洋子◆ | — | 副室長 | 南部中在籍 | 【6年目】 |
| ・ 加納 一城 | — | 主任 | 岩倉東小在籍 | 【5年目】 |
| ・ 松本 知子◆★ | — | 副主任 | 南部中在籍 | 【5年目】 |
| ・ 勝田 千陽 | — | 小学校代表 | 五条川小在籍 | 【4年目】 |
| ・ 海野 怜子◆★ | — | 中学校代表 | 岩倉中在籍 | 【4年目】 |
| ・ 牧野 裕太 | — | 岩倉南小在籍 | | 【5年目】 |
| ・ 鬼頭 美香 | — | 曾野小在籍 | | 【2年目】 |
| ・ 稲田 真人 ★ | — | 岩倉東小在籍 | | 【1年目】 |
| ・ 土屋 佳祐 | — | 岩倉東小在籍 | | 【2年目】 |
| ・ 社本 琴未 | — | 岩倉北小在籍 | | 【2年目】 |
| ・ 山下佳那子 ★ | — | 岩倉中在籍 | | 【1年目】 |
| ・ 井上 麻衣 | — | 南部中在籍 | | 【2年目】 |

◆ 海外生活経験者—4名, ★ 日本語教育専攻者—4名

⑦ 外国人講師 紹介

- | | | | |
|-------------|---|-------------|-------|
| ・ オテロフェルナンダ | — | ポルトガル語指導 | 【6年目】 |
| ・ 平野美幸 | — | 学校生活適応指導 | 【7年目】 |
| ・ レティシア | — | 初期・フィリピン語対応 | 【1年目】 |



3 日本語・ポルトガル語適応指導教室より

(1) 報告

- ① 在籍状況（4月7日—233名, 5月1日—236名, 18カ国13言語）
 - ・ 5月31日現在で242名。この先も増える可能性あり。
- ② 保護者会等通訳配置
 - ・ 黄色で網かけしてある箇所は確定している。網かけがないところは確定ではないので調整が必要。
- ③ 平成28年度 外国人児童生徒 進学・就職先
- ④ 今年度の取組（主なもの）
 - ・ 外国人向け進路説明会 6月2日(金)
例年夜の時間に行っていたが、今年度は南中の進路説明会の後に行う。
 - ・ NIE全国大会 2017 第22回（名古屋国際会議場） 8月4日(金)
 - ・ 公開指導 東小 11月6日(月)
 - ・ 入学説明会 小学校 2月2日(金)
 - ・ 情報提供会, 入学説明会 中学校 2月7日(水)
情報提供会と入学説明会を同じ日にしたのは、保護者の参加率を上げるためである。
 - ・ プレスクール 2月9日(金)より毎週, 全5回
- ⑤ 巡回指導について
 - ・ 児童生徒の増減や日本語能力に応じて、臨機応変に変更。
 - ・ 各校の授業参観や学校訪問の日も時間割通り指導を行う。
 - ※ 兼務命令で巡回指導を行っているため、曜日変更などへの対応は難しい。
できる限り在籍学校の時間割を考慮していきたい。
- ⑥ 学校生活適応指導（集中初期指導）

4月より東小11人 南小5人

現在東小8人 南小5人

- ・ 課題一会場校以外の児童送迎
- ⑦ 視察・問い合わせ（今年度 4月から）
 - ・ 富山県黒部市教育センター
保健関係翻訳文書使用依頼
 - ・ 香川県丸亀市立城乾小学校
日本語適応教室の運営のノウハウ
 - ・ 鹿児島県枕崎市立枕崎小学校
保健関係翻訳文書使用依頼
 - ・ 東京都狛江市立狛江第四中学校
ホームページ翻訳文書使用依頼
 - ・ 福井県越前市立武生南小学校
岩倉市日本語指導方式
モジュール指導について
 - ・ 一宮市立千秋中学校
外国人生徒の進路について
 - ・ 江南市教育委員会
「特別の教育課程」に基づいた「個別の指導計画」作成について
 - ・ 福岡県福岡市
視察依頼 6月19日(月)
 - ・ 愛知教育大学
「外国人児童生徒教育概説」 講義 依頼



- ⑧ 外部通訳・翻訳
 - ・ 近年、外国人の内訳が多言語化している。大切な文書の翻訳がたくさんの言語に渡ってしまうため、我々だけでは対応しきれない状況にある。養護教諭にとっても不便である。

(2) 日本語・ポルトガル語適応指導教室での現職教育

① 公開研修会

- ・ 月1回実施、ホームページに年間公開研修計画を掲載

② 部会の活動

『学習部会』

年間 国語テキスト作り

外部の方から岩倉市のテキストが使いやすいため、早くHPにアップして欲しいとの声が多い。年間を通して作成を進めていく。

『相談部会』

4月 iwakura-japanese ー今後の連絡手段についての検討

連絡頻度の精選・文例の作成（やさしい日本語）

年々、登録状況がよくないため、今後どのようにしていくか検討している。

5月 保健関係文書整理

iwakura-japanese周知

6月 高校視察の計画

夏休み 高校視察

2学期 就学時健診（翌年度の外国にルーツをもつ新入学児の把握）

幼保視察

プレスクールの計画・細案計画・担当者との打ち合わせ

3学期 プレスクール

外国人向け中学校入学説明会

『小学校部会』

年間 評価テストの見直し

1学期 NIEの取り組みを継続して実施

3学期 6年生の中学校ギャップ対策

「国語のまとめ」テキスト作成

マニュアル作成（学習面の情報提供）

児童が中学校に進学した際、戸惑わないよう手助けをしていく。

『中学校部会』

4月 NIEテーマで不足しているところ

（キャリア教育、話す・ディスカッション）の実践記録

進路説明会計画

5月 NIE成果と課題まとめ

進路説明会細案と通訳、担当者打ち合わせ

6月 進路説明会（南部中学校）

2学期 指導案検討

12月 外国人向け中学校入学説明会 計画

2月 外国人向け中学校入学説明会

③ 指導

『ユニバーサルデザインを取り入れた指導』

翻訳言語はポルトガル語と英語に絞って行ってきたが、多言語化してきたため、絵や写真、図等を使って誰にでも分かりやすい指導を心がけている。

- ・ モジュール形式

小中で違いはあるが、飽きさせず、教科と日本語を指導できるよう力を尽くしていく。

- ・ ICTの活用

(3) その他

① 書類関係

- ・ 受入れ手続－各校、教務主任、学年で対応していく。

受け入れ手続きはなるべく日本語担当の空いている時間に、日にちを決定していただきたい。

- ・ 翻訳文書－ホームページに掲載（担任へ連絡）

外部からHPアクセス数が増えている。4月は過去最高だった。

- ・ 日本語教育が必要な外国人児童生徒 報告－各学校で要確認

② 公開指導、意見交換会－岩倉東小学校で実施 11月6日(月)

③ フィリピン人講師勤務

- ・ 週3日、8:30～12:30（原則）

- ・ フィリピン語、初期指導対応

曜日は臨機応変に対応している。

④ 日本語能力試験－7月（17名）、12月

⑤ 第2回連絡協議会

- ・ 日程調整が難しいため、今年度は行わない。

4 意見交換、質疑・応答

- ・ 岩倉東小学校 養護教諭

保健関係の翻訳文書について、トルコ語の翻訳文書等、翻訳文書を増やすことは可能か。言語が対応していない児童については、保護者を学校に呼び、日本語担当者が時間をかけて対応している。

- ・ 日本語担当 室長

アレルギー関係書類で翻訳言語が増加したため、時間数が不足した。トルコ語の通訳者が見つかったが、予算の関係で、本年度の翻訳はこれ以上できない。

- ・ 学校教育課長

時間数が減ったことで苦勞をされていることを知らなかったため、一言相談があれば、予算をあてられたかもしれない。アレルギーは命に関わることなので、他の予算を削って翻訳にあてることが可能である。もともと200時間に設定したのは、フィリピンの児童が増加したためであり、今回はフィリピン語の通訳を配置したことで50時間に削減した。

・ 岩倉南部中学校 校長

モジュール形式に合わせて実践してみてもどうかという件について、日本語教育は児童が教室に戻った時に授業についていけるよう指導をされている。学級で、児童同士の話し合いを多く取り入れた授業スタイルが主流になる中で、日本語の中でもコミュニケーションを取る練習を取り入れていただけると助かる。

5 その他

・ 岩倉南小学校 校長

日頃から、日本一愛のある日本語指導をしていたいただき、感謝している。どの児童も親から愛をもらって皆生きているわけですが、親離れができない児童がいる。本校は明日から修学旅行であるが、一人欠席予定である。理由を本人に聞くと親と離れたくないとのことである。親としては、修学旅行に行かせたいとのことだ。野外活動も参加できなかったため、今度はうまく話し合いができればよかったと後悔している。我々は、一人一人の実態を見て、親の願いを受け入れながら、子どもの指導にあたらなければならない。



6 教育委員会より（高橋管理指導主事）

世界の情勢を考えれば、日本に外国人児童の受け入れが増えるのは予想しうることである。地域の人と一緒にポルトガル語を学ぶ等、多くの人とコミュニケーションをとる機会が必要とされている。先程のお話で出たように多言語の翻訳が必要とされている等、考えなければならないことや対応していかなければならないことが山のようにある。日本語担当者が核となって、皆で取り組んでいかなければならない。



5月・6月

各校での巡回担当者会

通常、事務局で行っている担当者会を市内7校の学校へ日本語担当者とブラジル人講師が出向いて行う。

各校の連絡協議会メンバー（校長先生、教務主任、養護教諭）や担任の先生方との意見交換をし、多方面の意見を今後の活動に取り入れていくことを目的に5月から6月にかけて実施。



6月

福岡県福岡市立内浜小学校 視察

- 1 日時 6月19日(月) 9:00～
- 2 会場 岩倉東小学校、南部中学校
事務局（岩倉南小学校）
- 3 内容 日本語指導見学
岩倉市の取組説明
質疑・応答
- 4 視察のお礼（一部抜粋）

福岡市は、子ども日本語サポートプロジェクトを立ち上げて4年目を迎え、あ



る程度の骨格ができたものの、まだまだ整備不十分の部分も多く、これからの地域です。今後の方向性を見る上で、今回視察させていただいたことは、大変刺激となり、参考になりました。

特に、拠点校教員の仕事分担については、市内で同じ取り組みを共通して行う点において、大変重要だと感じました。福岡市は支援地域が広いこともあり、各拠点校で共通の部分と、バラバラに行っている部分も多いので、今後のことを考えると今以上の統一性を持たせることは重要だろうと感じました。

また、母語支援については、現在母語が話せる拠点校指導教員が、適応指導、日本語指導、教科指導、翻訳・通訳、地域や大学との連携、在籍校のトラブル処理支援等にもあたっている状況で、教材の開発にまでなかなか手を回せていないことがあり、何らかの役割分担、特に通訳・翻訳業務、地域や大学との連携については行政との連携が必要だと感じました。

そして、プレスクールは、実際にそろそろ始めたいとちょうど考えておりましたので、開催時期や回数、内容をご教授いただいたことで、より具体的なイメージをもつことができました。是非来年度は、取り組んでみたいと思っております。

更に個人的に驚いたのは、1授業4ユニットで行われる授業形態です。日本語基礎と教科の統合学習の割合を考えることが難しい中で、大変興味深い方法だと感じました。実際に福岡市では児童生徒たちは、来日直後から在籍教室におりますので、母語では理解、表現出来るのに、というジレンマを抱えており、少しでも授業に参加できるようにするためには、一つの授業の中で、次々と学べることは大変意味があるだろうと考えました。

また、最も感動いたしましたのは、教材が全てデジタル化され、データが全てのチームスタッフに共有されていた点とプロジェクターを使った指導がされていた点です。やはり自分で苦労して作ったものは、あまりシェアしたくない方も多い中で、最初から作成する分野を分担していれば、同じものを別の教員がまた一から考えて作るという無駄が省け、市内で一定レベルの指導が可能ではないだろうかと考えます。

日本語担当者が、人事で次々に変わってしまう中で、一日も早く「一定の質を保って、誰が担当になっても困らない日本語指導、教科指導システム」を構築するためには、大変参考になるお話ばかりでした。

6月

進路説明会

外国人生徒とその保護者が日本の教育制度と受験制度の正しい知識を得、よりよい進路選択をするための情報を提供するとともに、具体的な進路相談の場とする。

- 1 日 時 6月2日(金) 16:30～
- 2 会 場 南部中学校 南多目的室
- 3 プログラム
 - (1) 受付
 - (2) 進路説明
 - ① 日本の教育制度について
 - ② 上級学校の種類について
 - ③ 受験制度について
 - ④ 授業料など学費について
 - (3) 各言語に分かれて情報交換会
 - (4) 卒業生からのメッセージ
 - (5) 個別相談



7月

愛知教育大学 「外国人児童生徒教育概説」 講師

- 1 日 時 7月19日(水) 14:00～16:00
- 2 場 所 愛知教育大学
- 3 内 容 学校教育の中での日本語指導

**7月**

日本語能力試験 前期

- 1 日 時 7月2日(日)
- 2 会 場 N1－国際観光専門学校, N2－愛知学院大学, N3－愛知大学,
N4－TKPガーデンシティ, N5－名古屋女子大学
- 3 合格者 受験者 17名中－ 合格 9名, 不合格 8名
 - ・ N1 合格者―― 1名 (受験者 6名中)
 - ・ N2 合格者―― 2名 (受験者 3名中)
 - ・ N3 合格者―― 1名 (受験者 2名中)
 - ・ N4 合格者―― 2名 (受験者 3名中)
 - ・ N5 合格者―― 3名 (受験者 3名中)

**7月**

七夕給食

- 1 日 時 7月6日(木) 給食時間
- 2 会 場 五条川小学校 日本語教室
- 3 目 的 日本の文化を味わう。
- 4 内 容
 - ・ 笹飾りや願いごとを短冊に書く。
 - ・ 手作りした七夕の紙芝居を給食の時間に披露する。
- 5 児童の感想
 - ・ 願いがかなうといいな。
 - ・ 紙芝居じょうずだね。
 - ・ 家で飾ろうと思う。

**7月**

お楽しみ会

- 1 日 時 7月14日(金) 給食時間 5時間目
- 2 会 場 曾野小学校 日本語教室
- 3 目 的 日本語教室に通う児童の交流を深めるため
- 4 内 容
 - ・ 給食時間に一緒に楽しく給食や弁当を食べる。
 - ・ 児童が計画したゲームやクイズを行い, 児童間や異文化の交流を図る。
 - ・ 転入生児童(外国にルーツを持つ児童)を歓迎する。
- 5 児童の感想
 - ・ 初めて全員集合して嬉しかった。
 - ・ 2学期もまたやりたいな。



7月・8月

夏休み宿題教室 (各校)

- 1 会 場 日本語教室
- 2 内 容
 - ・ 日誌の指導
 - ・ 感想文，応募作品，習字など，
家庭で取り組むことが難しい課題



『感想』

- ・ みんなでやると楽しい。
- ・ 宿題が全部できて嬉しい。遊ぶ時間が増えるよ。
- ・ 来年もやりたい。
- ・ たくさん学校に来て楽しかった。

7月

岩倉総合高校視察・懇談会

- 1 日 時 7月24日(月) 14:00～15:00
- 2 会 場 岩倉総合高等学校
- 3 参加者 4名
- 4 内 容
 - ・ 学校紹介
 - ・ 質問への回答
 - ・ 質疑応答
 - ・ 校内見学



懇談会を通して，ホームページや資料ではイメージしづらい総合高校の特色を知ることができた。実践的な授業を選択して受けることができるため，将来のビジョンがはっきりしている生徒にとっては，適した進学先といえる。普通科に比べて就職の面倒見もよいことから，入学後に進学・就職を選択することができる。また，資格取得についても力を入れており，資格取得者の多くが進学・就職に生かしている。自転車通学圏の公立高校を希望する生徒は毎年多くいるので，今回得た情報を生かし，今後の進路指導にあたっていきたい。

とりわけ外国人への特別な配慮はなく，在籍する外国人生徒も日本語に問題のない生徒ばかりであるが，地元からの生徒は国籍にかかわらず積極的に受け入れたいとの意向がある。今回の懇談をきっかけに中高の連携をより密にしていくことを互いに確認し合った。

8月

夏期 海外研修

- ・ モンゴル「岩倉市中学生海外派遣」
- ・ 韓 国「日韓学術文化交流研修」



8月

NIE 全国大会 発表

- 1 日 時 8月4日(金)
- 2 会 場 名古屋国際会議場
- 3 内 容 特別分科会
テーマ「新聞を活用した社会を生き抜くために必要な日本語力の育成」



外国人児童生徒の日本語教育に活用するNIE

「外国人児童生徒の日本語教育に活用するNIE」では、愛知教育大の上田崇一准教授をコメンテーターに、外国人の労働者が多い愛知、岐阜両県と東京の教員4人が、日本語教育に新聞を効果的に使う取り組みを報告した。

冒頭、岐阜県可児市の日本語教室で高校生を目指す学芸員が、アジアなどの生徒5人が登場。スポーツで得られる効果をまとめた子ども新聞の記事を参考とした授業を披露した。

同市新聞は生徒の約10%が外国人。小川裕美教諭は、日本語教室が重要な生徒向けの通級教室で子ども新聞を使いたいという思いで、新聞を活用した授業を披露した。

子ども新聞で語彙力

ズや情報収集などを行った「ふりがなが付いて写真が多いので心理的、言語的に負担が少ない。日本語の読み物に対する意識が変わっていった」と力説した。愛知県岩倉市はラジルの労働者も多く、市内の七中学校に日本語教室がある。南部中の加藤佳子教諭は、学生に伝えている子ども新聞から記事を選んで内容を説明し、分からない言葉を調べる授業を展開。「外国にルーツを持つ生徒が社会に関心を持つきっかけに、未来に夢を持つきっかけにしたい」と述べた。

東京都足立区豊田小の藤方愛子教諭は、北区稲田小の藤方裕介教諭は、日本語の手助けが必要となる児童を含む学級で、新聞のスクラップや新作作りを実施。「知らない言葉に慣れ、自然と語彙力が増す。たまたまでいいので、宗教的な内容は避けた方がいい」と配力を求めた。

小川裕美教諭、藤方裕介教諭、上田崇一准教授



9月

教育委員会月報 原稿 執筆

- 「文部科学省」教育委員会月報（平成29年9月号）
「シリーズ地方発！ 我が教育委員会の取組」

10月

編入・入学相談

- 1 日 時 10月6日(金)
- 2 会 場 岩倉東小学校 日本語教室
- 3 時 間 見学：1～4限
相談：2限休み時間
- 4 内 容



現在ブラジル人学校（HIRO学園）に在籍している年長クラスと小学3年生クラスに通う児童の保護者が来校し、学校生活適応指導教室や日本語教室、各学級の様子を見学された。保護者の方は、自分の子どもを日本の学校へ通わせるか悩んでいたため、相談にのり、アドバイスをした。

5 保護者の感想

- ・ 校内施設が充実していた。
- ・ 母語通訳担当者が在籍していて安心だ。
- ・ 日本語の取り出し授業もあり、学習環境も整っている。

10月

中部大学教授視察

- 1 日 時 10月4日(水)
- 2 会 場 岩倉南小学校 日本語教室
- 3 内 容 岩倉市の取組説明、日本語教室見学



10月

就学時健診 市内小学校

外国にルーツをもつ来年度新入児童の保護者の方々を対象に、スライドを使って日本の学校について説明をした。ブラジルやトルコ、フィリピン、パキスタン等にルーツをもつ、約20名の方が参加され、熱心に話を聴いている様子だった。

また、外国にルーツをもつ幼児には、日本語レベルを測る30問テストを実施した。就学時健診の終了時に各家庭の親子と面談し、結果を報告した。そこでは、日本語の力を伸ばすためのアドバイスや、プレスクールへの参加を呼びかけた。



【日本の学校について説明をする様子】



【面談の様子】

10月

南中ふれ愛フェスティバル

- 1 日 時 10月9日(月)
- 2 会 場 南部中学校
- 4 内 容

第一部：日本語教室発表「今日くらべてみました。」

日本の学校と生徒がルーツをもつ国の学校とを比較し、発表。



発表した生徒の感想

たくさんの人の前で発表するのが初めてだったので、とても緊張しました。しかし、たくさんの人に、自分の国の学校のことを紹介することができて良かったです。また、友達が自分の国の学校のことを「イイネ」と言ってくれて、嬉しかったです。(2年生 女子)

第二部：ザ・多文化共生クイズルーム

フィリピン、ブラジル、ペルー、パキスタン、トルコ、コロンビア、日本のクイズを生徒が作成し、日本語教室にて掲示。

参観者はクイズに答える形で参加。クイズに答えてくれた方には、カードをプレゼント。





岩倉市日本語・ポルトガル語適応指導教室 公開指導 岩倉東小学校 11月6日（金）

のべ参加人数 — 114名

公開指導参加者 — 111名（市内—31名，県外・市外—65名，担当者—15名）

意見交換会参加者—88名（市内—20名，県外・市外—53名，担当者—15名）

情報交換会参加者—61名（市内—2名，県外・市外—44名，担当者—15名）

◎ 公開指導 2時間目 9:40～10:25

指導	ポルトガル語指導	学校生活適応指導 (日本語初期指導)	日本語指導	
			初級指導	中級指導
外国人児童 の状況 及びねらい	日本に長く住んでいる児童が母語であるポルトガル語を保持し，保護者とのコミュニケーションがとれるように指導をしている。児童一人一人のアイデンティティーを自覚させるよう，ブラジルの文化にふれる機会を設けている。	来日したばかりで，日本語を聞いたり，話したりできない児童に対し，ひらがなや数字の読み書き，ものの名前などの指導を行っている。日常生活で必要な言葉を使えるよう，週20時間集中初期指導をしている。	日本語が十分身につけていない児童に対して，読む・話す・書く力を伸ばす指導を行うとともに，教科の基礎的な内容を補う指導をしている。日本の文化や習慣についての指導も行っている。	日本語での日常会話に支障は無く，教室の授業にも参加している児童に対して，現学年の学習補助指導を行っている。今後，日本で生活していくために必要な知識を身につけ，在籍学級でも活躍できるよう，指導をしている。
指導者	外国人講師 日本語担当者	外国人講師 日本語担当者	日本語担当者	日本語担当者
本時に指導する外国人児童	・ 5年生 2人 ・ 6年生 1人	・ 1年生 4人 ・ 2年生 1人 ・ 3年生 1人	・ 2年生 6人	・ 4年生 4人

ポルトガル語指導（学校生活適応指導教室 後面）

- 「アルファベット」
 - ・ アルファベットの順と読み方を復習する。
- 「文字・語彙・子音字M」
 - ・ 音節に合わせて単語を作る。Mを使った単語の読み書きをする。
- 「位置と方向」
 - ・ 位置や方向を表す言葉を確認し，体を動かして位置や方向を示す。



『参加者の感想より』

母語指導をはじめようと思っていたので，45分間ずっと見学させて頂きました。活動のバリエーションが豊富で，とても楽しかったです。教室内での掲示物は，岩倉市の理念に合った，「愛」を感じるものが多く，帰ったらすぐに取り入れようと思いました。母語指導で得たものを，日本語指導にも，マイナーチェンジして活用していきたいと感じました。

学校生活適応指導【S0】（学校生活適応指導教室 前面）

- 「日本語」語彙
 - ・ 本時に指導する語彙を，カードを使って学習する。
- 「日本語」助詞
 - ・ 「は，で，へ」の助詞の使い方を練習する。
- 「日本語」文作り
 - ・ 絵カードを使って文を作り，助詞に慣れる。
- 「日本語」文を書く
 - ・ 助詞を使った文を書く練習をする。



『参加者の感想より』

学習内容が体系化されていて，視覚的にも分かりやすかった。先生方の連携がとれていることも，子どもたちにとって大きなプラスであると思う。
遊び感覚でみんな楽しそうに学んでいる様子がよかった。

日本語初級・中級指導【S2・S3】（日本語教室1）

- 「国語」文字・語彙
 - ・ 動物と楽器の名前，楽器の演奏に関わる動詞を覚える。
- 「日本語」短文作り
 - ・ 「(名詞)が(楽器名)を(動詞)ています。」
- 「国語」カタカナで表す
 - ・ 聞こえてきた音をカタカナで書く。
- 「日本語」カタカナが入った短文作り
 - ・ 「(名詞)が(楽器名)を(音)と(動詞)ます。」



『参加者の感想より』

子どもたちに必要な教材を厳選し，組み立て，どう指導していくかの一例を見せて頂き，とても参考になりました。そして，子どもたちを導く先生方の声・表情がとても温かく，子どもたちの活動や発声を促していたと思います。私もこれから参考にさせて頂き，共に成長していきたいと思いました。

日本語中級指導【S3】（日本語教室2）

- 「国語」漢字
 - ・ 漢字カードを組み合わせる熟語を作る。
- 「国語」文と文をつなぐ言葉
 - ・ つなぎ言葉を使って，文をつなげる練習をする。
- 「算数」見積もりを使って
 - ・ まとまりを作って，見積もりをする。
- 「日本語」話す・発表
 - ・ つなぎ言葉を使って，自分たちの考えを発表する。



『参加者の感想より』

小4の子どもたちが目をキラキラさせながら見積もり，四捨五入，概数の学習に取り組んでいて，国際の子に限らず使える魅力的な教材だと思いました。あれだけのものを準備されている先生方の教材研究，努力，本当に素晴らしいですね。

【全体を通して】

年間を通じて、外国籍の児童と保護者のために様々な取り組みを実施されていることにとっても驚き、また勉強になりました。どの教室にも豊富な教材がそろっていることにも感激しました。

岩倉市のモジュール形式や教材はいつも参考にさせて頂いて、使わせて頂いています。モジュール形式の1時間の流れがよく分かりました。

本会に、岩倉市内の小中学校の校長・教頭・教務の先生方が参加していることにとっても感銘を受けました。多くの学校では、少数である外国籍児童生徒の対応や様々な悩みを、学校内のトップの先生方によく伝え、理解を得て、協力してもらうことが大事なのだと思います。

どの指導も、子どもが飽きることなく笑顔で学んでいる姿がすばらしいと思いました。今日の指導を参観して、もっと教科指導への橋渡しをしなければいけないと思いました。在籍校や担任と連携ができていて、どうやってそれを構築していったんだろうと思いました。日本語担当が2、3年で移動するので引き継ぎの難しさを感じます。岩倉の取組がすばらしくて、何から始めればいいのか、何ならできるのか考えています。

どの教室にしても、レベルに合った授業がされていて、工夫がされていました。何より、先生方も子どもたちも楽しそうで、授業はこうあるべきだなと改めて感じました。実に楽しくよい機会でした。

◎ 意見交換会

○ 岩倉市教育委員会 教育長

おはようございます。本日は大変たくさんの方においでいただきまして、お礼を申し上げます。体育館は少しひんやりしておりますが、その中で熱いお話し合いをしていただき、いい会になればと思います。

岩倉市の外国にルーツをもつ子どもたちの現状を少しお話しさせていただきます。本日、会場の東小中学校は現在86名の外国にルーツをもつ児童がおりまして、全校児童が154名ですから、全体の約55%となります。市全体では254名となり、国別ですと、19カ国14言語となります。年々人数が増えておりますが、人数が増えて、苦しい中でも、村瀬室長のもと、「日本一愛のある適応指導教室」を目指しているという心意気で頑張ってくれています。

県の加配が13名、ブラジル人講師2名、そして今年度よりフィリピン人講師が加わり、合計16名のスタッフで外国にルーツをもつ子どもたちに対応しております。要項に、「特色ある取り組み」として、小中連携、ポルトガル語指導、能力試験の取り組み、学校生活適応指導、プレスクールとありますが、初めから「特色」をねらってやってきたというわけではなく、結果として、それが「特色ある学校」、「特色ある指導」になったということだと思います。

今年で17年目になりますが、開設当初はなかなか大変で、「外国にルーツをもつ子が入ると授業にならない」、「その子に対応していると、他の子どもの対応が疎かになってしまう」などという声もありました。そのような課題を一つ一つクリアしていく中で、このような特色になったのだと思います。もし、村瀬室長が一人で取り組んでいたとしたら、現在のようにはなっていなかったかもしれません。室長が外国にルーツをもつ児童生徒対応の実情を周りに発信し、校長や教育委員会、行政等をうまく巻き込んできた結果としてこのような体制が整ったのだと思います。

本日はみなさんのご意見を聞かせて頂き、よりよい会になればと思います。そして、みなさまにもお土産を持って帰っていただければと思います。



○ 会場校 岩倉東小学校 校長

本日は九州や大阪など、遠方からもお越しいただき、ありがとうございます。私たちも、私たちなりに一生懸命やっておりますが、みなさんも、それぞれの現場の児童、生徒の実情に合わせてやっていくのが大切ではないかと考えております。

岩倉東小学校は岩倉団地ができると同時にできた学校で、市内で3番目にできた小学校です。当初は比較的生活水準の高い世帯が入居していたのですが、近年は外国人とお年を召した方が多くなっております。これは日本全国の団地にみられる傾向であると思います。そのような中で、この学校も外国人の対応をしていかなければならなくなりました。現在、全校児童154人中、外国にルーツをもつ児童が86人おります。その内訳は、ブラジルが57人、フィリピンが14人、トルコが7人、ペルーが4人、中国が1人、タイが1人、ボリビアが1人、インドネシアが1人となります。ブラジル人については、同じ言語を話す児童がたくさんいるということが返ってネックになっています。それに対して、数の少ない中国、トルコ、タイの児童は比較的早く日本語を覚えていっています。

要項の中の「東小学校の保護者より感謝の手紙」をご覧ください。先日行われた「エスペランサの会」での保護者スピーチを紹介します。「エスペランサの会」とは、ブラジルの保護者の方に協力していただき、シュラスコを作って全校児童と保護者で食べたり、世界のじゃんけんやあいさつなどを紹介したりするなど、外国にルーツをもつ児童が活躍できるイベントです。また「夢クラブ」とは、土曜日にボランティアの方々に日本語指導や学習指導を行っていただいているものです。そのような会を通して、子どもたちを育てていければいいと思っています。

以前は、児童が授業についていくことができればいいというような視点でしたが、これだけ人数が増えてくるとそれでは足りません。彼らが日本の中で普通の生活が送れるように、生活保護をもらいながら生活するのではなく、税金が払えるようになってほしい。そうでなければ、岩倉市、そして、日本の将来が暗いものになってしまいます。なんとか卒業すればいいということではなく、中学校卒業後、全日制の高校に行き、就職ができるようなレベルを目指し、子どもたちの意識や家庭の意識を高め、地域の皆様の協力をいただきながらこれからもやっていきたいと思っています。



○ 質疑応答

瀬戸市立萩山小学校 日本語適応指導教室担当

- ・ 私の勤務校では、外国にルーツをもつ児童が、来年度30%を超えます。今までは外国籍の保護者は、PTA役員を免除していましたが、これからは外国籍の保護者にも参加してもらわないといけなくなっており、とても困っています。学校内で、簡単な日本語で説明すればいいのではないかと、できる仕事をやってもらえばいいのではないかと、という意見もありますが、検討中です。岩倉東小学校では、どのようにしていますか。

→（東小校長）岩倉東小学校では、本年度よりPTA役員になってもらっています。PTA役員7人のうちの1人で、副会長をやってもらっています。それから、学級委員を4人にし、日本人2人、外国人2人にお願いしました。仕事内容は、特別に外国人用の仕事があるわけではなく、今まで日本人がやっていた仕事を分担するという形で取り組んでいます。また、エスペランサの会をPTA行事としております。

学年行事でも、PTA学級委員と担任とで企画等をやってもらっています。比較的日本語が話せる保護者の方を中心にお願いしているというのが現状です。

→（室長）外国人の保護者だからやらなくていいでは日本人保護者から苦情が出ます。十年以上前のことになりますが、そういうときに、外国人の方に自分や校長から声をかけ、粘り強くお願いしました。とっかかりとしては、日本語担当のブラジル人講師の先生にやってもらいました。そのように、形をつくっ

て次に引き継いでいきました。

小牧市立桃ヶ丘小学校 教諭 小河康恵

- ・ 就学時健診中のどの時間を使って、誰が簡易日本語テストをやっているか、教えて下さい。また簡易日本語テストがどのようなものなのかも教えて下さい。
→ (主任) 簡易テストは、DLAの語彙のカードを参考にして作成した、岩倉市独自の30問テストです。時間帯については、市内でも学校によって健診の順番が異なるので、それに合わせて行っておりますが、東小学校では健診、知能テストの後、日本語担当者と他の職員にも協力してもらいテストを行っています。

春日井市立篠木小学校 日本語教室担当

- ・ 「うちの子は日本で生まれているのだから、日本語指導は必要ない」という保護者がいます。岩倉にはそのような保護者はいないのですか。もしいるのであれば、どのような対応をしていますか。
→ (主任) 東小学校に関しては、「日本国籍だから日本語指導はいらない」という保護者は、少なくなってきたはいますが、そのような家庭もあります。就学時健診のときに日本語教室の取組について、スライドを使って保護者に説明し、理解をしてもらえるように努めています。家庭ごとにそれぞれの考えがありますが、「こどものために」ということが伝わるように、丁寧に説明をすることが大切ではないかと思います。

稲沢市立高御堂小学校 教諭 岩田真奈

- ・ 初期指導の大切さを痛感しています。岩倉市ではセンター校で集中して初期指導を行っているということですが、送迎に課題があるというお話がありました。送迎をどのようにされているのか、1日の流れをどのようにされているのか、1時間目から5時間目まで全てセンター校で指導されているのか、給食はどうされているのか、もう少し詳しく教えてください。
→ (担当者) 適応指導教室の送迎ですが、原則、児童の保護者が送迎することになっています。給食については、午後からは在籍校で過ごすことになっており、センター校で4時間目まで指導し、その後、在籍校に戻り給食をとっています。
→ (担当者) 岩倉南小学校でもフィリピン、ブラジルからの編入生が多かったですが、センター校に送迎できない保護者もいるため、レティシア先生とともに、岩倉南小学校で学校生活適応指導を行っています。
→ (主任) 学校生活適応指導、集中初期指導について、原則、小学生に関しては保護者の送迎、中学生に関しては自転車を通うことを許可しています。中には、保護者が学校に送迎できないという家庭もあります。そのような家庭に関しては、それぞれの在籍学校で日本語担当者が日本語指導に加え、学校生活適応指導も行い、少しでも早く日本の学校に慣れて学習に取り組めるように、指導に当たっています。ただ、なるべくセンター校で初期指導を行うことが望ましいと考えています。日程については、もともとは1時間目から4時間目までセンター校で集中初期指導を行い、その後に掃除や給食の指導を行っていました。ただ、現在では早く在籍校に慣れることを求める子どもたちが多いため、4時間目終了後に在籍校へ戻っています。
→ (室長) 初期指導、突然編入してきた子への対応は難しいと思います。岩倉市でも在籍校の日本語担当者だけでは、なかなか対応できないこともありました。そのため、学校生活適応指導の担当者を配置してもらいました。ただ、岩倉東小学校がセンター校ですが、常に対象の児童生徒がいるわけではありません。そのような場合は、出張で対象の児童生徒がいる学校で指導を行っています。



東京未来大学こども心理学部 教授 所澤潤

- ・ 外国籍の子どもの家庭内教育が問題になっています。大学の通信制課程の講義で、毎年80人のクラスを3回教えており、その中で外国籍の子どもの教育の話は必ずしています。受講生80人のうち2, 30人は外国にルーツをもつ子どもの支援に携わっていますが、その人たちに「家では日本語を使わせないようにしてください」と言っています。親が中途半端にあまりよくできない日本語で会話をしたり、母語と日本語を混用したりすることで、言語習得に悪影響を及ぼしてしまう可能性があります。だから、「そういうことはしないようにした方がよい」という話をすると、ほとんどの人が『『家庭でも日本語を使うように』』という指導をしていました」と言います。幼稚園、保育園の先生も同様のことがあるようです。また、日本語と母語を混ぜて話をする子がいて困っているということが幼稚園、保育園、小学校でもあるそうです。そして、「その理由が初めてわかりました」という受講生も多いです。この点について、岩倉市ではどのように家庭に指導をしていますか。
- ・ 群馬県の外国籍の子どもたちと関わっていて非常に気になっている問題が、家庭内体罰の問題です。子どもが痣だらけで登校するというケースが多いです。学力にも非常に悪い影響を与えています。さらに、ネグレクトの問題もあります。例えば、「トイレに行きたいと言い、教室でパンツを脱いでから行った」ため、そういうことを含め全て、日本語教室の先生が担当していると聞きました。家庭教育も行わないと日本語指導の効果が上がらないと思います。今日の岩倉の様子を見て、子どもたちがよく訓練されていると感じ、家庭にも指導を行っているのではないかと思います。その点について教えていただきたいです。

→ (副室長) まず最初に、母語指導、母語の話になりましたが、わたしもブラジルにルーツをもつ、ある生徒のことを思い出しました。彼女の保護者は、幼稚園の先生から「家でも日本語で話してください」と言われ、それ以来、家でも日本語で話すようにしていると聞きました。そのこともあり、本人の中には「日本人でいる自分」というのがしっかり根づいてしまって、小学校高学年からブラジル人の自分を恥ずかしいという様子が見られるようになりました。いろんなケースがあるとは思いますが、やはり母語、つまりお母さんの言語は大事にしてほしいと思います。お母さんが心の内を全て話せる言語を大切にしてほしいです。まずは、母語であろうが日本語であろうが、とにかく1つの言語をしっかりと育ててほしいと考えています。それと同時に、その子がルーツをもっている言葉についても大切にしてほしいとも思っています。先ほど話した生徒についても、ポルトガル語指導を通して、ポルトガル語のよさについて色々な話をしてきました。その成果か、先日学校行事で、「自分の国籍はダブル国籍であり、家ではポルトガル語を話すこともあります」と全校生徒の前で発表していました。このように、本人が色々なアイデンティティを大切にし、自己肯定感を高めるような話をしたいといつも思っています。

家での体罰など家庭内教育について、岩倉市として学校からの指導は、とくに行っていないです。やはり、どこまで踏み込んでもよいのかという線引きがとても難しい問題で、行政でもどこまで入り込んでいけるかの判断がしづらく、学校としてはもっと難しいと思います。そのため、非常に慎重に対応しています。ただ、個人的にはなるべく親とコミュニケーションをとるようにしています。例えば、岩倉市では、外国人講師が生徒たちの近くに住んでいるので、保護者と直接「学校としての話じゃない」と言いながら色々な話を丁寧にしてくれます。岩倉市でも、痣をつけて登校する子どもたちはいます。その際は、外国人講師からその保護者に電話をし、家での様子を聞いたり、学校での様子を伝えたりなど、個人的に話をしてもらっています。学校として保護者に家庭内教育について指導をしているということではなく、このような個人と個人との温かい人間関係のつながりとして行っています。

○ 岩倉市教育委員会 高橋管理指導主事

積極的なご質問ありがとうございました。もしお時間があれば、午後の情報交換会でまた色々のご意見をいただければと思います。今日授業を見られていかがでしたか。僕も、面白いなと思ったシーンがありました。初級・中級指導の教室で楽器の授業をしていました。先生がバイオリンを弾き、それを擬音語で表すという場面。ある女の子が指名されて、バイオリンの音を「イーイーイー」と言ったんです。僕は、当たり前のように「ギーギーギー」と言うかなと思ったので面白いなと思いました。1人1人国籍が違えば、当然背負っている文化的背景も違います。色々な感性があって、面白いなと思いました。外国人の子どもたちと日本人の子どもたちが一緒に学んでいるという教室は、当然色々な価値観、考え方、物の見方、視点、感性が交錯している教室だと思います。しかし、そもそも学びというのは違いの中から生まれるものであり、外国人と日本人が混ざっている教室というのは、大切な学びの種がたくさん詰まっている場であると考えられます。東小学校はもちろんそうですけれども、岩倉市内の小中学校は、豊かな学びが生まれる可能性がたくさん秘められているのだと思います。当然色々な課題があり、皆が苦労しながらやっていますが、豊かな学びが生まれるというプラスの面を強みに考えていきたいと思っています。先日、東小学校で行われた算数の授業研究に参加しました。3年生の三角形の授業でした。半分は外国人の子どもだったのですが、見ていてどの子が日本人なのか外国人なのか、区別が付きませんでした。その授業では、皆が色々な考えを出し合いながら学びを追求していました。東小学校の子どもたちは、今日見ていただいた、日本語適応指導教室の日本語指導や母語指導から学んだことを足場にして、教室に戻りクラスの皆と一緒に豊かな学びをつくっていきことができます。一方で、たくさんの外国人がいる学校に通うと、よい教育が受けられないのではないかと心配する方もいます。そういう意見を聞くと、よい教育とは一体何なのだろうと考えざるを得ないと思います。どんな教育がよい教育なのか、また僕たちが目指すべき教育とはどんなものなのかを考えていきたいと思っています。



◎ 情報交換会 14:00～16:00

〈1回目〉『同じ立場の方との情報交換』

○ Aグループ

・ 取り出し指導について

- 学校がインクルーシブ教育に重点を置き、取り出し指導を行うことができない。本人や保護者も定住する予定はなく、日本語学習への意欲が低いため、保護者から学校側に要求することはない。その上、通訳配置もなく、学校からの文書は英語で対応している。日本語担当は1名のみで全学年の児童を指導するため、生徒1人を支援できる時間も限られている。
- 言葉の調べ方を指導したり、自習できる教材を与えたりしてみてもどうか。大和市教育委員会が作成した「楽しい学校」は、外国につながる児童および保護者がスムーズに学校教育に入っていけるよう、生活語彙や教科学習に必要な語彙がまとめられている。



○ Bグループ

・ 異学年が混在する取り出し指導について

- 異学年が混在する取り出し指導での教科指導が難しい。出来る範囲で同じ学年の児童を取り出すが、時間割の関係で異学年の取り出しになってしまうことが多い。

- 異学年の取り出しの場合、日本語指導は全体の日本語のレベルにあったものを行い、教科指導はプリントやカードなどを使って個別で行えるようにする。
- 国語科の指導は、下学年の内容でも、言葉の細かい意味を確認しながら進めると日本語の力がつくので行うことがある。
- 国語科の時間で取り出しをする場合、年度の初めに各学年の国語科の授業が被らないように、担任の先生方や教務主任の先生に声をかけて、取り出しやすいように時間割を動かすとよい。市によっては教育委員会にも協力を仰いで日本語指導を充実したものにしている。
- ・ 国ごとの文化の違いについて
 - 外国にルーツをもつ児童は学校を些細な理由で休むことが多く、学習に遅れる児童が多い。保護者も危機感がなく、急に一時帰国や海外旅行などで学校を長期に渡り休ませることがある。日本には落第制度がないので、「学年が上がる＝学習についていけない」と勘違いしているケースもあるので、日本の学校に入学、編入する時に、日本の学校の制度をしっかりと説明をすべきである。

○ Cグループ

- ・ 愛知県と大阪府の現状と取り組み
 - 愛知県に比べると外国人が散在しているため、把握されていない子どもたちがいる。外国にルーツがあることを隠している家庭もある。
- ・ 日本語も母語も身につけていない子どもたちへの指導について
 - 家庭での協力を得ることは難しいため、学校での指導・支援が唯一のサポートとなっている。外部団体にも協力をしてもらいながら、サポートしていった方がよい。
- ・ 日本語指導をするにあたって気をつけていること。
 - 担任と密に連絡を取り合い、指導内容を確認して個別指導を行っている。
 - 学級の学習進度に合わせるのではなく、子どもたちの日本語力に合わせた指導を行っている。
- ・ 指導体制について
 - 複数校を巡回指導しているため、指導できる回数が限られている。
 - 加配の講師が多いため、継続した指導ができない。



○ Dグループ

- ・ 国語科指導について
 - 3年生以上の漢字が難しく、なかなか定着しない。現学年のテストに出る漢字は押さえさせたいが、テストのためだけの学習になりがちである。
 - 漢字の学習は家庭でも取り組めるよう、国語辞典や漢字辞典の引き方を指導している。
 - 文法シラバスに沿って、日々、教科書の内容に関する日本語指導を行っている。
 - リライト教材は賛否両論だが、初級レベルの児童が日々の音読の宿題に取り組むために有効で、児童の自信につながる。

○ Eグループ

- ・ 中学校における外国人生徒の抱える問題について
 - 中学生で編入してきた場合は日本語の問題があり、学校生活に適應するのが難しい場合が多い。
 - 中学校では学力の問題が深刻化してくる。
 - 学力・経済的理由で、進学先が定時制高校に限られる生徒がほとんどである。そのため、将来の仕事についての情報を提供し、高校卒業後の進路に夢がもてるように働きかけている。
 - 日本生まれで日常会話に問題はないように見える生徒であっても、語彙が少なく話題が乏しいことなどから、中学生になると友人との会話についていけなくな

り、疎外感を感じる生徒がいる。

○ Fグループ

- ・ 外国人児童生徒の編入と多国籍化について
 - 外国人児童の編入があったが現状の体制では対応できず、ボランティアに支援をお願いしている。
 - 多国籍化が進んでおり、体制が整っている自治体でも対応が難しくなっている。
- ・ 外国人児童生徒の来日・帰国について
 - 帰国予定がある児童生徒は日本語の学習に意欲をもち難い。
 - 出稼ぎのために来日し、帰国する予定があってもなかなか帰国できない家庭が多い。子どもを学校に通わせる、車を所有するなどの金銭が出ていく環境が整うことが一因。
 - 「四世ビザ」が開始されると、ブラジル人の来日が増えるのでは。

○ Gグループ

- ・ 母語指導の効果について
 - 週1回の指導なので、「母語を確立する」というレベルには至っていないが、保護者以外の人に母語で気持ちを伝えられるという機会となっており、心理的な面での効果は感じている。
 - 保護者に母語の重要性を伝えるにあたり、「学校で指導する」という形をとるだけで、保護者の捉え方が変わってくる場合があり、家庭での母語使用の促進につながる。
 - ポルトガル語と日本語のバイリンガル教育を導入している太田市のような例もあるが、実践するにはバイリンガルの教師が必要となり、人材確保が難しい。
- ・ 母語保持について
 - 幼稚園、保育園からの保護者への声かけが重要。
 - 外国にルーツをもつ児童・生徒の約8割が日本生まれとなっており、ダブルリミテッドの保護者も増えているが、母親が一番気持ちを表現しやすい言語で子どもに関わることが重要。

○ Hグループ

- ・ 学校と地域の日本語支援の連携について
 - 愛知教育大学では、豊田市・知立市・刈谷市・豊明市の教育委員会と連携し、外国人児童生徒の支援をするプロジェクトを行っている。
 - 九州大学では、福岡市教育委員会から相談を受け、大学からボランティアを学校へ派遣している。

○ Iグループ

- ・ 母語の重要性について
 - 母語が確立している分、認知力があり、ある程度、母語によって理解できる。
物事の内容も入り易い。また、児童生徒のモチベーションも上がり、学力ややる気のある子は進学していく。反対に母語が身についていないと漢字などの指導も難しく定着が悪い。
- ・ 日本語指導の教材について
 - 教育で役立つ「フィンガーボードプロ」というアプリの紹介。無料でダウンロードでき、活躍してもらえればぜひ活用してほしい。
 - 現代は音声、画像が簡単に利用できる。耳型と目型のタイプがあるので、個々のタイプに合わせて活用するとよい。
 - 日本語指導は、語彙や漢字だけを教えるのは難しい。
文脈と意味が大事。イメージしながら楽しんで覚えられるとよい。



○ Jグループ

- ・ 時間割の組み方について
 - 国語の内容は時間的にも内容的にも難しいため、算数で取り出しをして算数の用語や計算の定着を図っている。それに加え、機会がある時には作文をしたり、少し国語をやったりしている。
- ・ 学校生活適応指導（集中初期指導）について
 - 適応指導を行っている指導員がいるが、日本人のため母語ができない。
 - 指導自体は日本語のみで行ったほうがよいので、日本語のみで理解できるように教材を工夫しなければならない。

〈2回目〉『いろいろな立場の方との情報交換』

○ 1 グループ

- ・ 外国人児童生徒の発達障害について
 - 言葉の問題か発達障害かの判断が難しい。
 - 外国人保護者の一部は、明らかな発達障害の場合でも、言葉の問題であるとして受け入れない場合がある。
 - 保護者への連絡を密に行い、信頼関係を築きながら少しずつ理解してもらうことが重要。
- ・ 外国人保護者の通訳・翻訳について
 - 外国人保護者の中には通訳・翻訳を嫌う保護者がいる。
 - 入学前の就学時健診や入学説明会、受け入れ時などの機会に通訳・翻訳の有無を確認するとよい。

○ 2 グループ

- ・ ゼロベースで転入してきた子どもたちへのアプローチの仕方について
 - 家庭の都合で本人の意思に反して来日してきた児童ほど、学習意欲が低く、知識も定着しないため、困っている。
 - 部活動に参加させ、日本人の友だちができるとやる気につながることもある。
- ・ 児童間の語学習得能力の差について
 - 両親が保持する母語がそれぞれ異なる場合、子どもが混乱しないよう言語を使い分ける等、家庭でのルールをしっかりと決めさせることが大切である。
 - 年度当初に、在籍児童の文化の違いについて職員会議等で担任との共通理解を図るとよい。
 - 取り出し指導記録を作成し、毎週担任に児童の日本語学習状況を伝え、連携を取るとよい。

○ 3 グループ

- ・ 外国人児童生徒の発達障害について
 - 外国人児童生徒については、言葉の問題なのか発達障害なのかが分かりにくく、今まで特別支援学級に在籍していたとしても、進学・進級時に在籍学級への編入を検討した方がよい場合もある。
 - 特別支援学級を単に面倒見がよい学級だと誤解している保護者もいる。
 - 進路も含め、児童生徒にとって力を伸ばせる環境がどこなのか、保護者とともによく検討する必要がある。
- ・ 取り出し支援について
 - 学校の方針で取り出し支援を行うことができず、日本語指導員も1人なため、十分な支援を行うことができない。
 - 1週間に1コマは各学年・クラスの時間割を揃えるなど工夫し、在籍学級での授業内容が難しい場合に取り出し指導を行えるよう相談するのはどうか。
- ・ 散在地域の日本語支援について



- 日本語支援の体制がまだ整っていないため、どこから手をつければよいか分からない。
- 進路説明会は、すぐに行えることの1つ。卒業後のビジョンを明確にもたせることで、内申点やお金など、卒業後のために普段の学校生活でやるべきことを、親も子も理解することができる。
- 単に集住地域との差を比較するだけではなく、なにができていてから結果を得られているかを考え、できることを行っていけばよい。

○ 4 グループ

- ・ (中学校日本語担当教諭) 中学校で来日した子どもたちの受験指導について、たとえば放課後支援に当たっているガリ勉クラブさんではどうしているか。
- 来日時期に大きく影響するが、定時制に向けて頑張ることが多い。県内には外国人特別枠があるが、小4以降の来日など条件が限られているし、レベルも高い。各家庭の経済的にも私立の上級学校進学は難しい。作文指導や面接指導をみっちりやっている。
- ・ (大学院生・中学校で支援員としてボランティア) 担任と話す時間が全くなく、子どもの学習進度はおろか、生徒の様子を話すことができていない。
- 大きな問題であると思う。担任によって外国人児童生徒への対応が大きく異なることもあるので、教務主任など違う立場の先生に相談して、担任との間こそ、情報交換がなされるべきである。

○ 5 グループ

- ・ 受入体制が整っていない学校への急な編入について
- 初期集中指導も大切だが、在籍クラスに早期に戻すことも必要ではないか。長く別の環境に取り出しているよりも、在籍学級への入り込み指導をしてはどうか。
- 大人向けの日本語教材では、子どもにとって身近でない語彙も多いため、三重県や他の市町村などがホームページにあげているような教材を使ってみてはどうか。

○ 6 グループ

- ・ 教科と日本語指導の割合はどのようなものか。
- 教科と日本語の両方を時間内に指導するのは難しい。モジュール指導を活用したり、個に応じたかみ砕いて指導したりするなど、課題に対してアプローチしていくとよい。
- 担任の先生と相談して、個に応じた入り込みや取り出しなどの判断をし、有効的な指導をしていく必要がある。
- モジュールの課題を示すことは、児童生徒自身にも課題が明確になりユニバーサルデザインでもあり、有効的である。
- 担任に頼まれた課題は、できるだけ取り組むとよいのではないかと。最終目標は、現学年に戻ることで。
- ・ 個別の指導計画はどのようなものか。
- 岩倉市日本語独自の指導計画がある。教科の指導計画に合わせたもので、成績入力表と関連している。
- ・ 本時の授業について
- 整備された教材を活用して文法的な内容の指導が多く感じた。
- 文法や文の構造については、つまずきやすいレベルなので、繰り返し教えたりして学習言語の定着を図っていく。また、カタカナを取り入れるなど文法と組み合わせたりしながら指導し、新しい学びを見つけていく。

○ 7 グループ

- ・ 外国人児童生徒を担当する教員について
- 外国人児童生徒への指導のために加配された教員その他業務への流用がされている。

- ・ 日本語担当・管理職・担任間での連携について
 - きちんとした体制ができている市町はいいが、外国人児童生徒の人数が少ないところでは体制が整えられておらず、関係者間での連携を図るのが非常に難しい。
- ・ 下学年編入について
 - 日本語力の問題のみを考えて安易に行うべきではない。弊害を保護者にきちんと伝えることが大切。

○ 8グループ

- ・ 外国人保護者に向けての日本語教室
 - 豊田市の保見団地では、外国にルーツをもつ児童生徒の保護者に向けた日本教室がある。土曜日に学校行事がある時など、外国人保護者が学校に来るタイミングで開催される。豊田市日本語支援センターと協力をして、支援を進めている。児童生徒もいるときは親子で参加することもある。
- ・ 学校で使う言語について
 - 外国にルーツをもつ児童が多い学校では、日本語に早く慣れるためにも、学校内では原則、日本語を話すように徹底するとよい。だが、外国にルーツをもつ児童が少ない学校では、あまり日本語を強要しすぎるとストレスになってしまうことがあるので、「授業中は日本語を使う」などの細かいルール設定をするとよい。

○ 9グループ

- ・ 発達障害について
 - 外国にルーツをもつ児童生徒で発達障害をもつと思われる児童生徒が、全国的にみても増えてきている。
 - 判別方法が難しく、知的に分からないのか、言語的に分からないのか正確には分からない。
- ・ 発達障害をもつと思われるダブルリミテッドの幼児、児童について
 - 学校や全体の中では日本語を指導しながら、母親と母語で質のよい会話をたくさんしてもらえるように促せばよいのでは。
 - 言語はそれぞれ脳に部屋があって、ある程度学習するとその部屋の切り替えが上手になるので、どちらか一方に絞る必要はない。
 - 書きはあとからでもできるので、まずは話す・聞くをたくさんさせたい。

○ 10グループ

- ・ 進学について
 - パキスタン籍の生徒が、高校進学を希望しているが進学を許さない。卒業後保護者は就職を希望している。高校へ行く実力はあるのに残念だ。
 - 中国籍の生徒の保護者は、専門学校を見下している。
 - 愛知ビジネス専門学校は、内申点が低く入学がしやすい。試験科目は、国語と面接で、国語は黒板の答えを写すだけ。しかし、資格は取れるし就職率もよい。
- ・ 特別支援学級か普通学級かの見極めについて
 - 母親はフィリピン人、父親は日本人（鬱病）。児童は日本語での日常会話はできるが語彙が定着しない。給食はまったく食べない。母親との言葉でのコミュニケーションは全くなし。月に4回の日本語指導しかないののでどうしたらいいか悩んでいる。
- ・ 学級でのいじめについて
 - 人前で鼻をはじったり、おならをしたりを日常茶飯事です。注意しても、中国人だからと開き直る。そのため、この児童がなにか言うと、冷たい視線で阻害感がある。担当者は、日本と中国の習慣をクイズ形式で伝えたりしているが、日本の習慣になじめない。

○ 全体会

- ・ 他言語の母語指導について
 - フィリピン人の家庭に関しては定住が多く、母語指導の必要性は低い。
 - 学校における母語指導によるバイリンガルの養成は、現状難しい。
- ・ 保護者の言語能力について
 - かつて来日し、日本で教育を受けた世代が親世代になっている。
 - 受け入れ体制が不十分であった時代に来日した親世代は、ダブルリミテッドとなってしまっている。
 - 保護者に言語の大切さを訴えかけていく必要がある。



11月

小中学校初任者研修会 講師

- 1 日 時 11月8日(水)
- 2 会 場 愛知県総合教育センター



11月

国際交流 岩倉中学校 コスモス祭 達人道場「ブラジルの文化にふれよう」

- 1 日 時 11月10日 (金)
 - 2 参加者 生徒 29名
 - 3 講座内容
 - ・ カポエイラの歴史について
 - ・ 実技指導
 - ・ 楽器について
- 『生徒の感想』
- ・ 同じクラスにブラジル人の友だちがいるので、今回の体験からもっとブラジルに親しみを感じるようになった。
 - ・ カポエイラの動きは難しくなかなか慣れなかったが、普段できない経験をすることができてよかった。
 - ・ 貴重な楽器にも触ることができ、とても有意義な経験だった。



11月

視察

- 1 日 時 11月30日 (木)
- 2 会 場 岩倉東小学校
- 2 参加者
 - ・ 教室 岐阜聖徳学園大学より専任講師1名・学生2名見学 2時間目～4時間目
 - ・ 中部大学より教授1名・留学生1名見学 2時間目～4時間目
 - ・ 岩倉市国際交流協会より見学 2時間目
 - ・ 大府市立共長小学校より1名視察 5時間目



12月**お楽しみ会 曾野小学校**

- 1 日 時 12月14日 (木)
- 2 会 場 曾野小学校 日本語教室
- 3 時 間 給食時間 ロング放課
- 4 目 的 日本語教室に通う児童の交流を深めるため
- 5 内 容

- ・ 給食時間に一緒に楽しく昼食（給食や弁当）をいただく。
- ・ 給食時間に「2学期がんばったこと」を発表する。
- ・ 児童が計画したゲームやクイズを行い，児童間や異文化の交流を図る。
- ・ 転入生児童（外国にルーツを持つ児童）を歓迎し，転出生児童にお別れの挨拶をする。



- 6 児童の感想
- ・ また，みんなで集まることができて嬉しいな。
 - ・ 「2学期がんばったこと」を発表したり，聞いたりできてよかった。
 - ・ 「ハンカチ落とし」や「椅子取りゲーム」，クイズも楽しかった。
 - ・ 6年生の二人が計画や司会をしてくれて，ありがとう。
 - ・ 3学期は「6年生を送る会」をやろう。

12月**外国人の親の会**

- 1 日 時 12月15日(金) 19:00～20:15
- 2 会 場 岩倉市立南部中学校 研究室
- 3 参加者 南部中学校長，外国人講師，日本語担当，保護者2名，生徒1名

- 4 内 容
- ・ 部活動について
朝が早く，休日にも部活動があることに戸惑っていると意見を頂いた。
また，連絡が保護者まで行き届かないことがあるとわかった。
 - ・ 家庭と学校の連絡について
わからないことや伝えたいことがあれば，すぐに電話で連絡を取り合うという共通理解をした。
 - ・ 家庭学習について
課題の取り組み方やテスト前の勉強方法について質問があった。保護者が生徒の課題をみたり，一緒に取り組んだりしている家庭もあることがわかった。
 - ・ 進路について
日本の進路のしくみで日本の学校における進路の情報がなく，わからないことが多いという心配の声があった。



12月**保育園・幼稚園 視察****1 目的**

次年度，入学予定園児についての情報交換を行うとともに，プレスクール対象園児の指導にいかす。

2 視察日程

- ・ 下寺保育園 ・ 西部保育園
- ・ 仙奈保育園 ・ 曽野第二幼稚園 ・ 中部保育園
- ・ 岩倉幼稚園 ・ 東部保育園 ・ ゆうか幼稚園

**12月****国際理解集会 五条川小学校****外国にルーツをもつ児童の保護者による絵本の読み聞かせ**

1 日時 12月18日(月) 朝会 (8:25～)

2 会場 体育館

3 参加者 2年高橋レチシアさんのお母さん，取り出し指導の児童たち

4 目的

- ・ 全校児童に異文化交流の場を与える。他言語に興味を持ってもらう。
- ・ 外国にルーツをもつ児童に活躍の場を与える。
(司会，クイズ出題，保護者の紹介，インタビューを子どもたちがする)
- ・ 外国にルーツのある児童の保護者を学校現場で活躍してもらう。

5 内容

【ブラジルについてのクイズ】

クイズを出題して，①，②，③の三択で答える。

【ポルトガル語と日本語での絵本の読み聞かせ】読み聞かせ—2年児童のお母さん
ブラジル国籍の保護者が，ブラジルの絵本（サシ・ペレレ）をポルトガル語と日本語で読み聞かせをする。全校児童に興味をもってもらうために，絵本に出てくる主人公の声を外国にルーツのある児童の声で演出。

**6 感想**

『インタビューした児童の感想』

- ・ ポルトガル語の読み聞かせは初めて聞いた。日本語もとても上手だった。
- ・ ブラジルのことがクイズでよくわかった。

『読み聞かせをした保護者の感想』

- ・ 全校児童の前で話すのは初めてでとても緊張した。みんな静かに私の話を聞いてくれて嬉しかった。自宅で練習してからの本番だったのでよかった。よい経験をさせてもらった。

『外国にルーツをもつ児童の感想』

- ・ 司会は緊張した。でも，みんなが楽しそうにクイズをしたり，読み聞かせを聞いていたりしたのでよかった。
- ・ 次は，ぼくのお母さんが読み聞かせをしてほしい。

12月**日本語能力試験 後期 12名受験**

- ・ N1 合格者－ 2名(受験者 2名中)
- ・ N2 合格者－ 3名(受験者 4名中)
- ・ N5 合格者－ 6名(受験者 6名中)

※ 12名の受験者中・・・合格 11名, 不合格 1名

日本語能力試験 合格者表彰

- 1 日 時 10月, 2月
- 2 会 場 岩倉南小学校

岩倉南小学校では, 7月の前期日本語能力試験で, N5－2名, N4－2名, N1－1名の計5名が受験し, 全員, 合格することができた。また12月の後期日本語能力試験でも, N5を3名が受験し, 3名とも合格することができた。前期・後期ともに合格通知が届いた後, 朝会の時間を使って, 校長先生より表彰の伝達をして頂いた。全校生徒の前で表彰されることで, 普段あまりスポットの当たらない外国にルーツをもつ児童たちが意欲的に取り組む姿が見られるようになったり, まだ受験をしていない児童たちも, いつかは表彰されたいと向上心が見られるようになったりと, 少なからずよい影響を受けている。

**12月****学校案内 説明会 (学校見学者対応)**

- 1 日 時 12月21日(木) 10:30～12:00
- 2 会 場 岩倉市立南部中学校 日本語教室
- 3 内 容

ブラジル人学校から公立中学校に編入を希望している生徒とその保護者が見学のため来校。中学校や高校入試について案内と説明をした。

**12月****公益財団法人 名古屋YWCAガリ勉クラブ 冬休み教室見学**

- 1 日 時 12月26日(火) 9:00～12:30
- 2 会 場 名古屋YWCAガリ勉クラブ
- 3 参加者 日本語担当者6名, 外国人講師1名
- 4 内 容
 - ・ ガリ勉クラブ活動説明, 懇談
 - ・ 冬休み教室参観 (多読, 学校の宿題, 各自の課題)
 - ・ 昼食 食育 (おにぎり作り)

説明や懇談を通して, 活動の成り立ちや支援内容, 支援者の取組や子どもたちの様子を知ることができた。また教室を参観することにより, 子どもたちの実態 (国籍, 年齢, 就学, 在日期间), 学習内容や形態, 支援の様子, 教材や資料など, 実践的な現状を見学することができた。特色として, 漫画も含めて多読に力を入れている様子を伺うことができた。

支援員の方々や子どもたちと話すことにより, 学習面のみならず内面的なサポートをされていることも痛感し, 深い愛情やつながりを感じた。

また一年に一度の取り組みとして, 子どもたちはおにぎり



作りを行い、日本の食育文化に触れ合うことができた。その際、支援員の方々がお米や味噌など日本の食文化のクイズを行ったり、手作りの味噌汁やおかずなども準備してくださったりして、子どもたちの笑顔が印象的であった。

1月

視察

- 1 日 時 1月19日（金）午前
- 2 会 場 岩倉東小学校
- 3 参加者 富山市立柳町小 日本語担当教諭1名，
愛教大大学院生1名
- 4 内 容
 - ・ 日本語指導参観
 - ・ 岩倉市の取組説明，質疑応答



1月

国際交流 五条川まつり

- 1 日 時 1月20日(土) 9:00～11:10
- 2 会 場 五条川小学校 日本語教室
- 3 参加者 外国にルーツをもつ児童の保護者，日本語教室の卒業生
愛知教育大学大学院生 武藤里奈さん
- 4 目 的
 - ・ 日本語教室しかできない催し物を企画。準備段階から子どもが協力して作り上げていく。(CM撮り，景品作り，クイズ・掲示物作り)
 - ・ 外国にルーツをもつ保護者と参加者，ボランティア児童との交流や活躍の場とする。
- 5 内 容
 - ・ 参加者は保護者の方に，ポルトガル語・ビサヤ語・タガログ語・ルーマニア語・パシュトゥー語のブースで，それぞれの言語の数字（1～10）までの発音を教えてもらう。
 - ・ 数字のレクチャーが終わったら，子どもたちが，それぞれの国のクイズを3択問題で出す。（2問）
 - ・ 最後に，各言語の数字が書いてある葉を受け取った後，各言語の「ありがとう」を保護者から教えてもらい言う。



- 6 感想
 - ・ 毎年，外国にルーツのある方々とふれ合えて嬉しい。
 - ・ 日本にいるのに，一度にいろんな国のことばが耳に入ってくるのが楽しい。
 - ・ 五条川まつりへの参加を楽しみにしている。
 - ・ ゲストティーチャーができて嬉しい。
 - ・ たくさんの人と交流ができて嬉しい。
- 『児童の感想』
 - ・ 準備で，いろんなものを作るのが楽しかった。
 - ・ 教室の仕事と両方やるのは忙しかったけど，楽しかった。
 - ・ お母さんが先生をされていてかっこいい。

1月

NIE 壁新聞作り『フレンズしんぶん』 五条川小学校 手作り・学級新聞コンクール入賞『銅賞』（東海日々新聞社）

- 1 日時 1月28日(日) 14:00 (授賞式)
- 2 会場 豊橋 ほの国百貨店 催事場
- 3 参加者 代表児童4名
- 4 目的

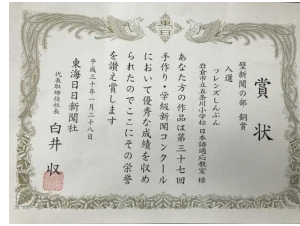
昨年度から取り組んでいるNIE教育で、子ども新聞に親しんだり、読み取ったり、自分の考えを伝えることができるようになってきた。そこで、今までの学びを活かして、子どもたちの手で、壁新聞作りに取り組むことにした。

5 内容

- 『1作目』 壁新聞のレイアウトや記事についてはアドバイスしながら取り組んだ。
 『2作目』 子ども新聞の記事を低学年と高学年用を選び、その記事についての意見や自分の考えを書いたり、頑張ったりしたことについて書いた
 『3作目』（コンクールに応募）入賞「銅賞」
 子どもたちが、それぞれの担当を決め、5W1Hで記事を書いていった。レイアウトやデザインは女子を中心に工夫して出来上がっていった。
 『4作目』 国際理解集会・五条川まつり・漢検、日本語能力試験合格を中心に記事をまとめた。表彰式に参加した児童が中心となり壁新聞を作った。

6 表彰式に参加した児童の感想

- ・ 大勢の人の前で表彰してもらって、ドキドキしたけどすごく嬉しかった。
- ・ 会場に掲示してあった壁新聞はすごく上手ですごいなと思った。
- ・ またみんなでがんばって、もっとよい賞を取りたい。
- ・ たくさんの人と交流ができて嬉しい。



2月

新入児 入学説明会（一日入学時に実施）

○ 目的

- ・ 保護者並びに入学予定者に小学校の様子を知ってもらい、入学準備の参考にする。
- ・ 日本の学校に入学するにあたっての心構えをもってもらう。
- ・ 保護者と教師で協力体制を作るきっかけにする。
- ・ 日本語教室について理解してもらう。

- 1 日時 2月2日（金） 13:30 - 15:30
- 会場 センター校（岩倉東小学校） 日本語教室
- 2 対象 来年度、岩倉市内の小学校に入学する外国人幼児の保護者
- 3 内容 ① 日本の学校について
② 日本語・ポルトガル語適応指導教室について



2月～

プレスクール ～日本の学校に慣れるために～

1 目的

- (1) 入学後、早く学校に適應できるよう、環境に慣れ親しむ。
- (2) 学校生活に必要な基礎的事項を体験したり、学習したりする。
- (3) 新入児の日本語力を把握する。

2 期間・日時

2月9日（金）、16日（金）、23日（金）、3月2日（金）、3月9日（金）

15時30分～16時30分

3 場 所

岩倉市立岩倉東小学校 学校生活適応指導教室

4 参加新入学児ー 22名

保護者や新入学児の希望および日本語力が十分身についていないと思われる新入学児

5 指導者

- ・ ブラジル人講師，ボランティア

※ 日本語担当者が，必要に応じて指導を支援する。

6 事後

- (1) プレスクール期間内で到達した内容を記録し，保護者・入学予定の学校へ報告する。
- (2) 入学後の追跡調査を行い，来年度に向けて課題点を挙げる。



2月

外国人のための入学説明会

1 日 時 2月7日(水)

2 会 場 岩倉中学校・南部中学校

3 内 容

- ・ 中学校生活について
- ・ 上級学校進学について
- ・ 就学援助申込みについて
- ・ 中学生からのビデオメッセージ



来年度，入学予定の外国にルーツをもつ小学6年生の児童とその保護者を対象に，スライドを使って日本の中学校について説明を行った。また，中学1年生の生徒1名と2年生の生徒1名によるビデオメッセージを上映した。

今年度は，開催日程を中学校の入学説明会と同日にしたため，参加を予定していた保護者全員に参加していただくことができた。しかし，全体の入学説明会後に外国人向け入学説明会を行ったため，拘束時間が長くなってしまい，児童も保護者も疲労している様子が見られた。

2月

視察

1 日 時 2月8日(木) 13:30～15:30

2 場 所 岩倉東小学校

3 視察者 常滑市議会文教厚生委員会 7名

4 内 容

- ・ 日本語指導参観
- ・ 岩倉市の取組説明，質疑応答



日本語学習に彩り加え

加藤 洋子さん(42) 愛知県岩倉市南部中教諭



外国にルーツを持つ子どもが多い愛知県岩倉市。そうした生徒たち向けに開く日本語教室で、2015年度から新聞を取り入れた。「日本で生きていく中で、社会参加の第一歩になれば」との願い。表現力の向上や、将来を考えるキャリア教育に生かしてきた。

当初、生徒たちは新聞を目にすると、文字の多さなどから露骨に嫌がった。まずは慣れてもらおうと考えた。ルビ付きのページなど、日本語の

力に応じた記事を用意したり、興味のある記事を生徒自身に選んでもらったりと工夫した。学んだ内容を新聞風にまとめる際にも、実際の新聞の構成を手本として見せた。

NIEの授業を特設するのではなく、ふだんのカリキュラムの範囲内で新聞を活用している。分かりやすく説明する力を培う国語の単元では、さまざまな職業を紹介する欄「ハローお仕事」（現「お仕事ファイル」）を生徒が読み、自分でまとめて説明。キャリア教育にもつなげた。

新聞を日本語学習に役立てる生徒たち＝愛知県岩倉市南部中で



活動を重ねて「生徒が新聞を嫌がらなくなり、入り口を広げられた」と手応えを感じている。「カリキュラムの中に上手に取り入れることで彩りのある授業にしていけたら」と語った。（鈴木あや）

【実践例】

NIE 中3 情報収集・発信
『新聞の社説を比較して読もう』

1 対象生徒：ステップ1～3

2 使用教材：読売新聞

（社説 首相真珠湾を訪問 日米は「和解の力」を实践せよ 2016年12月29日付）

3 内 容

社説を読み、それに対する自分の意見を述べる。
（在籍学級で発表するための先行学習として）

4 取組を終えて

ステップ1・2の生徒にとって、内容を読み取ることはハードルが高い。しかし、生徒の興味のあるテーマに絞ったことで、新聞記事に向かう前に、生徒から内容について活発な意見を引き出すことができた。また、意見を出した上で、新聞記事から自分の意見と同じ部分を探す作業をしたため、比較的容易に取り組むことができた。

ステップ3の生徒は、興味のある社説を自分で選び、記事の読み取りをした。歴史的な知識や特殊な言い回しについては、こちらから説明をしたが、漢字の意味から知らない熟語を推測するなど、できるだけ自分の力で内容を理解できるように促した。

全生徒を通して、文章の構成を一から考えることが難しいため、あらかじめ一定のフォーマットを用意しておいたことで、作文をそのまま教室での発表に活かすことができた。



◎ 個人調査票 内容改定 (調査項目)

学年、学校名、名前、国籍、母語、性別、
正式名、生年月日、ステップ、在留資格、
住所、母語力、来日時期、健康状態、出席状況、
宿題・準備、家族、親類、父母の国籍、会社、
保険有無・種類、公的扶助、保護者日本語力、
在籍までの経緯、卒業後の希望、学校行事参加、
学習塾・習い事、帰宅時家族在宅状況、
連絡先・連絡可能時間帯、連絡できる友だち

平成 年度 外国人児童生徒 個人調査票 ④		
学年	5	備考①
学校名	五条川小学校	日本国籍(約30年前に母親が日本人と結婚、離婚の...を未婚で出産。血のつながりのない元夫の名をつける。
名前	タプル	
国籍	フィリピン語	
性別	男	
正式名		
生年月日	2003.02.17	備考②
ステップ	1	保育園の時、1年間フィリピンで過ごした。
在留資格	永住者	
住所	岩倉市	
母語力	全くできない	
来日時期	日本生まれ	
在籍までの経緯	日本(岩倉のみ)	
卒業後の希望	高校進学	
健康状態	健康	備考③前年度までの必要事項を済す
出席状況	良好	2022年Facebookを通じて出会う機会をもち再会。実父はトルコ人で、解休業を営む。トルコにも家庭があり3才の娘をもつ。3ヶ月ごとに日本とトルコの行き来を繰り返す。その帰国日に帰れて母子とも頻りに会い、経済援助を母子とも受ける。養父は養育放棄。
宿題・準備	親の協力でできる	
学習塾・習い事	なし	
家族	母子 一人っ子 義父	
親類	近隣にあり	

◎ マニュアルの改定

- 管理職向け お願い・確認事項
- 教務主任向け 確認事項
- 養護教諭向け 確認事項
- 学級担任 Q&A ハンドブック
- 岩倉市日本語適応指導教室マニュアル 担当者向け

岩倉市日本語・ポルトガル語適応指導教室		
校長先生・教頭先生へのお願ひ・確認事項		
目次		
日本語・ポルトガル語適応指導教室	概要	P1
日本語・ポルトガル語適応指導教室	理念	P3
日本語・ポルトガル語適応指導教室	特色	P3
日本語・ポルトガル語適応指導教室	連絡協議会・説明会	P3
日本語・ポルトガル語適応指導教室	原則	P4
日本語・ポルトガル語適応指導教室	提出書類及び作成文書	P4
日本語・ポルトガル語適応指導教室	就学方針	P5
学校生活適応指導(集中初期指導)		P6
日本語・ポルトガル語適応指導教室	公開指導	P7
日本語適応・ポルトガル語適応指導教室	ホームページ	P8
『日本語教育適応学級担当教員』とは?		P9
担当者 在籍校での校務分掌関係		P9
担当者 責任校での仕事		P10

◎ 外国にルーツをもつ児童生徒 追跡調査(H13～H29) 作成

平成20年度入学 30名			平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	備考
氏名	国籍	来日時期	小学1年	小学2年	小学3年	小学4年	小学5年	小学6年	中学1年	中学2年	中学3年	
ブラジル	ブラジル	4～6才	東	東	東	東	東	東	東	東	東	
ブラジル	ブラジル	4～6才	東	東	東	東	東	東	東	東	東	
ブラジル	ブラジル	0～3才	東	東	一	東	東	東	東	東	東	
ブラジル	ブラジル	0～3才	東	東	一	東	東	東	東	東	東	
ブラジル	ブラジル	0～3才	五	五	五	五	五	東	東	東	東	
ブラジル	ブラジル	0～3才			イザクウソン	小教より	東	東	東	東	東	
ブラジル	ブラジル	小4			方山北小	東	東	東	東	東	東	
ブラジル	ブラジル	4～6才			方山北小	南	南	東	東	東	東	
トルコ								大山北小	東	東	東	
ブラジル	ブラジル	0～3才	東	東	東	東	東	東	東	東	東	
ブラジル	ブラジル	0～3才						名古屋竹野小学校	東	東	東	
ブラジル	ブラジル	4～6才	曾	曾	曾	曾	曾	曾	曾	曾	曾	
ブラジル	ブラジル	日本生	五	五	五	五	五	五	五	五	五	
ブラジル	ブラジル	日本生			内城山小	五	五	五	五	五	五	
フィリピン	フィリピン	小4						大山北小	北	北	北	
ブラジル	ブラジル	小5						方山北小	南	南	南	
ブラジル	ブラジル	小5						方山北小	南	南	南	
ブラジル	ブラジル	小6						方山北小	南	南	南	
ブラジル	ブラジル	小5						方山北小	南	南	南	
ブラジル	ブラジル	0～3才	東	東	東	東	東	東	東	東	東	
ブラジル	ブラジル	日本生	東	東	東	東	東	東	東	東	東	
ブラジル	ブラジル	小5						方山北小	南	南	南	

◎ 日本語・教科テストの改定

※ 改定に合わせて、評価方法や集計一覧表の見直しを図る。

○ 指導区分・ステップ(個々の日本語習熟度の段階)の見直し

- ステップ0(S0) —— 学校生活適応指導ー集中指導
- ステップ1(S1) —— 初期 (聞く)
- ステップ2(S2) —— 初級 (話す)
- ステップ3(S3) —— 中級 (読む)
- ステップ4(S4) —— 上級 (書く)

※ ステップ2～4(S2-①～S4)- 日本語能力試験指導

3学期 日本語・教科 ステップ別指導計画表		
指導区分	小5	小6
重点的指導項目	△・○	△・○
その他の名前	小5	小6
小5	小5	小5
小6	小6	小6
小7	小7	小7
小8	小8	小8
小9	小9	小9
小10	小10	小10
小11	小11	小11
小12	小12	小12
小13	小13	小13
小14	小14	小14
小15	小15	小15
小16	小16	小16
小17	小17	小17
小18	小18	小18
小19	小19	小19
小20	小20	小20
小21	小21	小21
小22	小22	小22
小23	小23	小23
小24	小24	小24
小25	小25	小25
小26	小26	小26
小27	小27	小27
小28	小28	小28
小29	小29	小29
小30	小30	小30
小31	小31	小31
小32	小32	小32
小33	小33	小33
小34	小34	小34
小35	小35	小35
小36	小36	小36
小37	小37	小37
小38	小38	小38
小39	小39	小39
小40	小40	小40
小41	小41	小41
小42	小42	小42
小43	小43	小43
小44	小44	小44
小45	小45	小45
小46	小46	小46
小47	小47	小47
小48	小48	小48
小49	小49	小49
小50	小50	小50
小51	小51	小51
小52	小52	小52
小53	小53	小53
小54	小54	小54
小55	小55	小55
小56	小56	小56
小57	小57	小57
小58	小58	小58
小59	小59	小59
小60	小60	小60
小61	小61	小61
小62	小62	小62
小63	小63	小63
小64	小64	小64
小65	小65	小65
小66	小66	小66
小67	小67	小67
小68	小68	小68
小69	小69	小69
小70	小70	小70
小71	小71	小71
小72	小72	小72
小73	小73	小73
小74	小74	小74
小75	小75	小75
小76	小76	小76
小77	小77	小77
小78	小78	小78
小79	小79	小79
小80	小80	小80
小81	小81	小81
小82	小82	小82
小83	小83	小83
小84	小84	小84
小85	小85	小85
小86	小86	小86
小87	小87	小87
小88	小88	小88
小89	小89	小89
小90	小90	小90
小91	小91	小91
小92	小92	小92
小93	小93	小93
小94	小94	小94
小95	小95	小95
小96	小96	小96
小97	小97	小97
小98	小98	小98
小99	小99	小99
小100	小100	小100

◎ 指導カリキュラム（指導項目・指導内容）

教育の目的，教育内容を超えて，教授活動やそれに対する教師の構えのようなものにまで拡大して，教育にアプローチする姿勢そのものまでもカリキュラムとして捉えなおす

◎ 日本語テキスト 指導教材

※ 評価の姿勢を含んだ類型（入出力モデル）
具体的に観察できる教育目標を設定しておいて，それに対応する教材，教具を開発，それを【指導＝学習】の過程で活用

にぎる おと



◎ 日本語・教科テスト

【指導＝学習】の結果を日本語的な内容と教科的な内容に分けたテストを作成し，個々の到達度を評価する。

Evaluación de la capacidad del idioma japonés los estudios
日本語・教科 到達度評価 ～担任の先生へ～

○○学校 小5 学年 姓名

3学期		得点	到達度
ものごとの名前	Childen	57.5	△
漢字	Kanji	49.0	△
国語（日本語）	Japanese	48.0	△
日本語能力試験	Basic level of the test	45.4	○
日本語 評価		平均	ステップ
Evaluation of Japanese language		55.4	Step2
国語・教科 評価		平均	ステップ
Evaluation of Japanese language		50.0	Step2
日本語・教科 評価		平均	ステップ
Evaluation of Japanese language		53.0	Step2

Step	Step4 上級	Step3 中級	Step2 初級	Step1 入門	Step0 基礎
1学期	71～100	56～70	41～55	26～40	11～25
2学期	71～100	56～70	41～55	26～40	11～25
3学期	71～100	56～70	41～55	26～40	11～25

◎ 個人課題

日本語・教科テストの結果より，現状の日本語・教科の到達度を把握するとともに，個人課題を明確にし，指導スタイル・教材・教具・テストの見直しを図る。

【個人別指導カリキュラム】

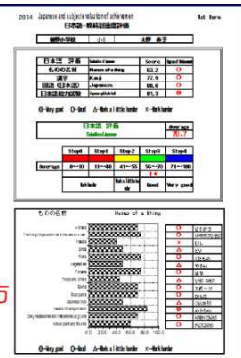
評価

5言語対応

ポルトガル語 中国語
スペイン語 英語
フィリピン語

グラフ・色分け

保護者にわかる伝え方



◎ 指導ユニット・モジュール

● 岩倉日本語指導方式

年間指導ユニット 配当計画 ステップ・学年・月別

サイクリル(学期ごとのステップの見直し)	ステップ1(S1)	ステップ2(S2)	ステップ3(S3)	ステップ4(S4)
1学期	4月(3週)	5月(4週)	6月(4週)	7月(3週)
2学期	9月(3週)	10月(4週)	11月(4週)	12月(3週)
3学期	1月(3週)	2月(4週)	3月(3週)	

1 指導ユニットの指導モジュール数配分は，日本語力のステップに応じて比率を決める。
現在の日本語力レベルと現在の半期の学習内容，1指導ユニット・モジュール数配分比率は，概ね下記のようになる。

ステップ	指導モジュール数	指導ユニット数
[S1]	10	0
[S2]	7	3
[S3]	5	8
[S4]	2	8

『指導指導ユニット・モジュール数配分例』
39 : 0 (39モジュールの場合)
19 : 8 (27モジュールの場合)
9 : 9 (18モジュールの場合)
2 : 7 (9モジュールの場合)

『ステップ3』【小3・小4】4月・5月・9月・12月・1月ー9指導ユニット(36モジュール)

指導ユニット①	指導ユニット②	指導ユニット③	指導ユニット④	指導ユニット⑤	指導ユニット⑥
日本語(ステップ1)	日本語(ステップ2)	日本語(ステップ3)	日本語(ステップ4)	日本語(ステップ5)	日本語(ステップ6)
国語(漢字の指導)	国語(漢字の指導)	国語(漢字の指導)	国語(漢字の指導)	国語(漢字の指導)	国語(漢字の指導)
算数(数の指導)	算数(数の指導)	算数(数の指導)	算数(数の指導)	算数(数の指導)	算数(数の指導)
理科(科学の指導)	理科(科学の指導)	理科(科学の指導)	理科(科学の指導)	理科(科学の指導)	理科(科学の指導)
社会(社会の指導)	社会(社会の指導)	社会(社会の指導)	社会(社会の指導)	社会(社会の指導)	社会(社会の指導)
英語(英語の指導)	英語(英語の指導)	英語(英語の指導)	英語(英語の指導)	英語(英語の指導)	英語(英語の指導)

『ステップ3』【小3・小4】7月・3月ー6指導ユニット(24モジュール)

指導ユニット①	指導ユニット②	指導ユニット③	指導ユニット④	指導ユニット⑤	指導ユニット⑥
日本語(ステップ1)	日本語(ステップ2)	日本語(ステップ3)	日本語(ステップ4)	日本語(ステップ5)	日本語(ステップ6)
国語(漢字の指導)	国語(漢字の指導)	国語(漢字の指導)	国語(漢字の指導)	国語(漢字の指導)	国語(漢字の指導)
算数(数の指導)	算数(数の指導)	算数(数の指導)	算数(数の指導)	算数(数の指導)	算数(数の指導)
理科(科学の指導)	理科(科学の指導)	理科(科学の指導)	理科(科学の指導)	理科(科学の指導)	理科(科学の指導)
社会(社会の指導)	社会(社会の指導)	社会(社会の指導)	社会(社会の指導)	社会(社会の指導)	社会(社会の指導)
英語(英語の指導)	英語(英語の指導)	英語(英語の指導)	英語(英語の指導)	英語(英語の指導)	英語(英語の指導)

『ステップ3』【小3・小4】6月・10月・11月・2月ー12指導ユニット(48モジュール)

指導ユニット①	指導ユニット②	指導ユニット③	指導ユニット④	指導ユニット⑤	指導ユニット⑥
日本語(ステップ1)	日本語(ステップ2)	日本語(ステップ3)	日本語(ステップ4)	日本語(ステップ5)	日本語(ステップ6)
国語(漢字の指導)	国語(漢字の指導)	国語(漢字の指導)	国語(漢字の指導)	国語(漢字の指導)	国語(漢字の指導)
算数(数の指導)	算数(数の指導)	算数(数の指導)	算数(数の指導)	算数(数の指導)	算数(数の指導)
理科(科学の指導)	理科(科学の指導)	理科(科学の指導)	理科(科学の指導)	理科(科学の指導)	理科(科学の指導)
社会(社会の指導)	社会(社会の指導)	社会(社会の指導)	社会(社会の指導)	社会(社会の指導)	社会(社会の指導)
英語(英語の指導)	英語(英語の指導)	英語(英語の指導)	英語(英語の指導)	英語(英語の指導)	英語(英語の指導)

- 学年・教科・月・ステップ別 指導教材・画像ファイルの整理
- 日本語・教科テストの整備
 - ・ 漢字テスト, 教科用語・学習用具テスト, 語彙テスト, 国語(日本語)テスト, 算数(数学)テスト, 日本語能力テスト
- ◎ 教材
 - ・ 新規作成・編集, 教材作成用画像の整理
- ◎ 翻訳文書 新規作成および修正
- ◎ 保護者への発信 学校から保護者の方への情報発信の充実
 - ホームページ Homepage
<http://www.iwakura.ed.jp/nihongo/E29.htm>
 学校行事予定をスマートフォンやタブレットからも閲覧できるように。
 - 外国人保護者向けメール
 - ・ iwakura-japaneseメールより, 保護者へ学校行事や緊急メールを発信
- ◎ 通訳配置
 - ポルトガル語・スペイン語・中国語・フィリピン語通訳の配置
 - ・ 保護者会, 就学時検診, 1日入学, 他随時
- ◎ 担当者会・研修会（詳細は、別紙一担当者会記録を参照）

※ 担当者会で話し合ったことは、在籍校の校長先生・教務主任に報告。
教育委員会へは、室長から報告。

- 担当者会の進行
 - ① 各担当者からの報告・課題（責任校・巡回校・初期指導）
 - ② 各担当者からの報告（研究内容・開発教材など）
 - ③ 共通理解を図るべき事項の検討
 - ④ 担当者会 会場校 校長先生からの御指導
- 各担当者は、それぞれの役割分担に従って、下記の内容を行う。
 - ① 教材・テスト作成
 - ② 指導法・指導内容の研究
 - ③ 児童生徒の日本語力状況確認及び指導時間割の見直し
 - ④ 翻訳文書作成

※ ブラジル人講師は、随時、話し合いに参加し、翻訳文書の作成をする。
★ 個人レベルの研究も各自、自主的に進めていく。

- ・ 担当者会 毎週 火曜日実施 ・ 研修会 毎週 水曜日実施

◎ 視察・講師依頼 問い合わせ 平成29年度

○ 香川県丸亀市立城乾小学校	日本語適応教室の運営のノウハウ
○ 一宮市立千秋中学校	外国人生徒の進路について
○ 江南市教育委員会	「特別の教育課程」に基づいた「個別の指導計画」作成について
○ 愛知教育大学	外国人児童生徒教育概説 講義 依頼
○ 岡山市立岡輝小学校	日本語教室教材使用依頼
○ 岩倉市日本語適応指導教室 公開指導 11月6日(月) 参加者 114名	
○ 富山県富山市立柳町小学校1名	日本語指導見学 岩倉市の取組説明 質疑
○ 岐阜聖徳学園大学 講師, 学生 3名	岩倉市の取組 概要説明 質疑 日本語指導見学
○ 中部大学 教授, 留学生2名	岩倉市の取組説明 日本語指導見学
○ 愛知教育大学大学院生2名	日本語教室指導および担当者会 見学
○ 扶桑町立高雄小学校2名	学校生活適応指導教室 見学
○ 福岡市 日本語拠点校教諭	岩倉市日本語・ポルトガル語適応指導教室の取組 視察
○ 富山県黒部市教育センター	ホームページ 保健関係翻訳文書 使用依頼
○ 東京都狛江市立狛江第四中学校	ホームページ 翻訳文書 使用依頼
○ 福井県越前市立武生南小学校	岩倉市日本語指導方式 モジュール指導について

岩倉市日本語・ポルトガル語適応指導教室 指針

岩倉市日本語・ポルトガル語適応指導教室創設より17年目を迎えた。当初、4ヵ国4言語、26名で開始した岩倉市・日本語ポルトガル語適応指導教室であるが、平成30年3月1日現在、岩倉市内の小中学校には、20ヵ国15言語、250名程の児童生徒が在籍し、そのうち約80パーセントを日系人が占めている。

人と人とのコミュニケーションを図るための意思伝達手段として、言葉は重要である。外国人児童生徒（外国にルーツをもつ日本国籍児童生徒を含む）は、日本語を母語としないため、自分の気持ちを先生や友達に伝える際の表現力が劣り、意思疎通がうまく図れない場合がある。そんな外国人児童生徒に対して、語彙量を増やし、時と場に応じた言葉の使い方を指導することで、コミュニケーションが円滑に図れるようになり、日本の生活に適応することができるようになる。

また、生まれた国や言葉の違いだけでなく、生まれ育った環境により文化や生活習慣、考え方は異なる。戸惑いや不安の中、外国人児童生徒たちは、日々、ストレスを抱え、肌で文化の違いを感じている。反面、外国人児童生徒の日本語習得が進むにつれ、母語を忘れ、親と母語でのコミュニケーションをとることが困難になっていくという問題も発生している。両親ともに朝早くから夜遅くまで働いていることが多く、親と話す時間が極端に少ないため、その傾向はより強くなっている。

一見、学校生活に適応し、楽しく過ごしているように感じる外国人児童生徒でも、学校でしか使わない学習用具の名前や教科書に出てくる言葉など聞き慣れない言葉が理解できずに戸惑うことが多い。このように、日本の学校生活に適応できない、教科学習が理解できないうえに、家庭では保護者の日本語力が低いため、支援を得ることができず、生涯、ハンディキャップを背負っていくことになる。

さらに、中学校を卒業した後の進学・就職の問題など、外国人児童生徒は多くの問題を抱えている。学校で認められ、誉められ、日本語を覚え、日本での思い出を作ればよいという時代ではなくなった。彼らの学びを保障し、彼らの将来への礎と日本の将来を担う一員として教育していかなければならない。このような外国人児童生徒を取り巻く環境を考慮し、将来の夢や目標をもって日本で生活していけるよう、日本の学校や日常生活に適応できるように指導していく必要がある。

そこで、常日ごろから、指導をしていく中で児童生徒に言い続けていることがある。

ここでの学習は、定住するにしろ、母国に帰るにしろ、必ず自分の力となり、その力は自分の夢の実現に近づける手助けとなるものであるということである。

日本に來たばかりで、言葉もわからず、自分の気持ちを表現することができない状態で生活していくことは、とても苦痛を感じる。そんな中で、前向きに日本語を学ぼうとする姿勢は、周りの日本人の児童生徒にもプラスの影響を与えるものであると思う。そのような外国人児童生徒たちの努力は、尊敬に値するものである。

また、日本人の児童生徒にとっても、様々な国の子どもたちと生活していくことは、国際理解の第一歩であり、他者への思いやりの心をもち、人の立場でものを考えられるようになることにつながるのである。国際理解とは、自己を知り、他を認めることである。自分の国、地域の自然や社会、学級や家庭を自分自身とのかかわりの中で、学び、知り、理解すること。また、他の地域や国に住む人々について知り、文化、習慣の違いを互いに認めあうこと。すなわち、相手の立場が理解できる

ということである。外国人児童生徒が、日本の文化・習慣に慣れることは、もちろん大切なことであるが、できる範囲でこちらからも相手の国の文化・習慣を理解し、お互いに歩み寄ることも必要であると思う。日本人児童生徒と同様に外国人児童生徒も、認められ、誉められることで、自己の存在感を感じることができるのである。そこで、『心の居場所』づくりをするとともに『授業で活躍できる学力』をつけることが大切であり、縁あって、出会った外国人児童生徒が、日本にいてよかったと感じるような指導を心掛けている。

岩倉市日本語・ポルトガル語適応指導教室

